様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　６月１７日現在

研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2005-2008
課題番号：17500649
研究課題名（和文）　宮崎広域市町村圏域におけるサービスラーニングモデル構築とその評価

研究課題名（英文）　Construction and Evaluation of Service Learning Model in Cooperation with Miyazaki Region

研究代表者
田中　宏明（TANAKA HIROAKI）
宮崎公立大学・人文学部・教授
研究者番号：20265036

研究成果の概要：学生のボランティア活動におけるサービスラーニングモデルを作成し，大学と地域を結ぶ ICT を活用した COCOMO(COmmunication for COmmunity service learning MOdel の略)のシステム構築を行った．具体的には，大学で行なう教育としてのボランティア活動を学生の意識向上のために，ポートフォリオを用いた自己評価を可能にした．さらに、学生の記入するブログを公開することより地域の評価を受けられるようにした．

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2005 年度	1,500,000	0	1,500,000
2006 年度	600,000	0	600,000
2007 年度	600,000	180,000	780,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,400,000	390,000	3,790,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：科学教育・教育工学
キーワード：ボランティア、NPO、サービス・ラーニング、CMS、e-Learning

１．研究開始当初の背景

今日，少子高齢化社会の到来や産業・経済の構造的変化，雇用形態の多様化・流動化などを背景として，将来への不透明さが増幅するとともに，就職・進学を問わず，進路を巡る環境は大きく変化している．また，都市化や核家族化・少子化等によって地域の連帯感や人間関係が希薄になり，個人が主体的に地域や社会のために活動することが少なく，子どもや若者を巡る問題，医療や福祉の問題，環境問題など，社会が抱えるさまざまな問題に適切に対応することが難しくなっている．

このような状況の中，若年者のアルバイト，契約社員，フリーターといった非正規雇用者や無職者，ニート志向の増加が社会問題となり，キャリア教育の推進が望まれている．そのため，社会の仕組みや働くということ，希望する職業の実情，さらに自己についての理解を深めるため，実際に労働体験をするという職場体験やインターンシップ，ボランティアなどの体験型学習が，多くの大学で行われている．

２．研究の目的

本研究では体験型学習であるボランティア活動を教育活動の一環として位置づけた「ボランティア論」という講義において，学生の成長や学習効果を促すシステムの構築

を目的としている．そのため，ボランティア活動をブログに記録させて教員によるコメントができるようにし，また学生自身による評価を促す自己評価シートを作成するなど，一連の活動記録をシステム化する．さらに、それらの情報発信から地域の活性化を目指す．

３．研究の方法

(1)「ボランティア論」の講義内容

「ボランティア論」は，2 年次の半期（平成 19 年度は後期，平成 20 年度は前期）の期間行い，講義のねらいを①視野の拡大，②協調性・創造性・独創性のある人材の育成，③責任ある社会人の育成，④大学と地域社会の関係強化としている．

講義計画の概要は次のとおりである．

(a)一斉講義（第 1 週から第 5 週まで）：オリエンテーションを行い，実際に宮崎県内で活躍しているボランティア団体の現場の報告を聞き，その心構え等を理解する．

(b)学外活動（第 6 週から第 11 週まで）：活動の時間とし，地域に出て 30 時間以上を目標にボランティア活動を行う．学生自身で興味関心のある団体を探し，活動に参加する．

(c)報告会（中間報告，最終報告）：中間報告会，最終報告会を行う．それぞれが参加した活動の内容，活動を通して考えたこと，感じたこと，またそれを今後にどう活かすかなどについて話し合う．

(d)レポートの提出：これまでの内容を踏まえてレポート作成を行う．

教育プログラムとしては，図１に示すサービス・ラーニングの概念を取り入れた．サービス・ラーニングとは，自発的意思に基づいて，一定期間の社会奉仕活動（サービス活動）を体験することによって，教室等で学んできたこと（知識）を実際のサービス体験に応用し（経験），また体験から得た知識を学ぶ（内省）教育プログラムである．実際のサービス活動を有意義に行うためには，事前の心構えや準備が必要であると同時に，実際の体験から学んだことを自分の知識として取り組んでいく内省の過程が大切である．

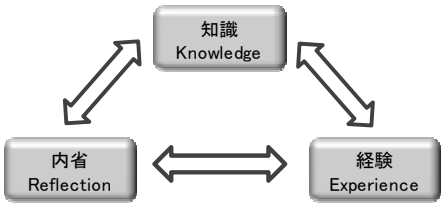

図1 サービス･ラーニングの概念図

(2) 内省の方法とシステム構成

COCOMO サイトは，サービス・ラーニングで重要視される内省を促すために，学習物を綴じ自身の記録を振り返る学びであるポートフォリオを取り入れた．

図２に「ボランティア論」受講生の内省の流れを示す． 図に示すように，受講生はまず活動を始める前に目標設定を行う．次にボランティア活動実践ごとに，活動内容，活動時間数，感想等（選択式の 15 問，記述式は 2 問：「感じたこと」「次回気をつけたいこと」）を活動記録シートに記入し，活動ブログには日記風の詳細な活動を記す．また，活動時間の約 10 時間ごとに自分の現在までの状況を振り返りながら自己評価シートの質問（五者択一の 26 問，記述式の 2 問）に答える．記述式には，「活動して感じたこと」「これから学生生活をどのように過ごしていこうと考えるか」といった内省を行う内容になっている．これら一連の流れは，各学生の活動時間数によって自動的に表示される．

システムは，CMS として有名な XOOPS Cube とし，活動の記録に提供されている既存のモジュールをカスタマイズして使用した．また，活動記録の表示には新たに活動記録表示モジュールを作成した．ユーザは学生，教員，ボランティア団体，ゲストのグループに分け，それぞれ異なる権限を持たせて運用

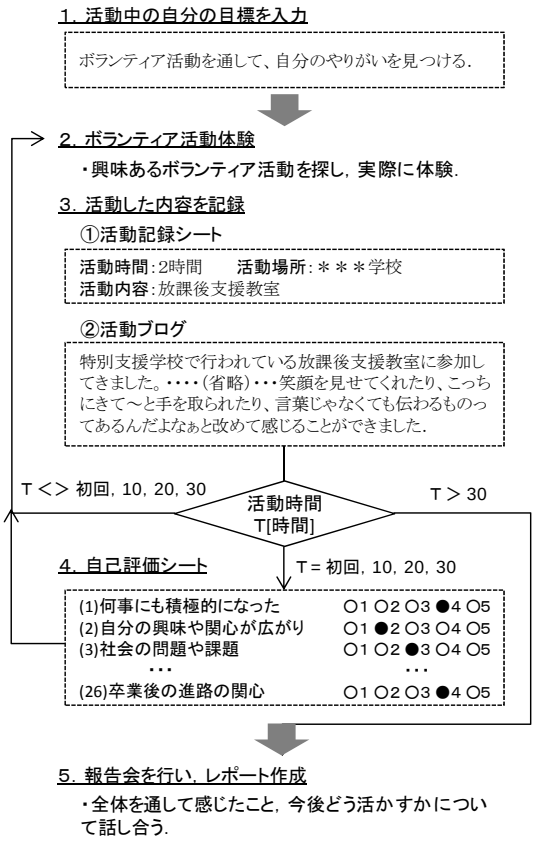

図2 内省の流れ

した．

COCOMO サイトで使用するモジュールは以下のようになる．

(a) BM-Survey モジュール：アンケートフォームを作成できるため，活動記録シート（図２中の①）と自己評価シート（図２中の４．）に使用し，活動時間によってシートを制御できるようにした．

(b) PopnupBlog モジュール：ユーザごとにブログを作成できるため，活動ブログ（図２中の②）に使用し，活動記録シート記入後に各学生のブログ入力画面が表示されるようにした．活動ブログは一般に公開されている．

(c)活動記録表示モジュール：学生の振り返りを容易にするために，ボランティア活動フォルダとして，目標，活動記録を一覧にし，活動ブログをリンクした．また，図３に示すように担当教員が学生の活動状況を把握できるように活動時間の一覧表示，個人履歴確認などができるようにした．

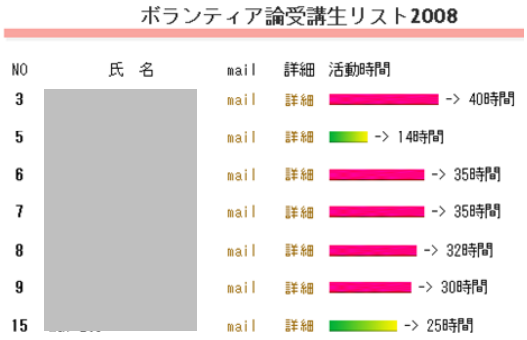

図3 学生の活動状況

４．研究成果

(1) COCOMO サイトを用いた実践活動

①受講生のボランティア活動状況

「ボランティア論」の講義は２年次の半期の科目で２単位として行われ，平成 19 年度は後期，平成 20 年度は前期に開講された．表１に受講生数とボランティア活動を 30 時間以上達成した人数を示す．

表２には，受講生が活動した内容を年度ごとに上位７位まで示す．保育サポーター，読み聞かせ，児童館のお手伝い，スクールボランティアなど子どもに接する活動の割合が高い．次にスポーツ大会などイベント関係や障害者，高齢者の支援に関する活動となっている．

表1 受講生の状況

	平成19年度	平成20年度
開講時期	後期：10月～2月末	前期：4月～9月末
受講学生数	35名	34名
30時間以上達成	30名(85.7%)	27名(79.4%)

表2 活動内容と時間数

	平成19年度		平成20年度	
	活動内容	時間	活動内容	時間
1	保育サポーター	337	児童館で手伝い	258
2	青島太平洋マラソン	186	読み聞かせ	164
3	宮崎キネマ館手伝い	109	保育サポーター	93
4	スクールボランティア	64	マラソン車いすバスケ	81
5	よかよかボランティア	58	全日本マスターズ陸上	76
6	輝太鼓演奏会手伝い	50	聞き書きボランティア	46
7	犬や猫の譲渡会	41	宮崎市立図書館	44
8	その他	387	その他	348
	合計	1232	合計	1110

一つのボランティア活動を５回以上継続して行っている割合を調べると，平成 19 年度は 80%(24 名)，平成 20 年度は 48%(13 名)であった．ボランティア団体は年間を通して様々な活動を行うが，イベントの開催の時期は大学でいう前期に比べ，秋季の後期に計画されることが多い．そのため，平成 19 年度は「ボランティア論」が後期に開講され，ボランティア団体が行う大きなイベントの企画など準備段階から参加でき，平成 20 年度は前期開講のため日頃のボランティア団体の活動への参加の割合が高かった．

②COCOMO サイトのブログ利用状況

COCOMO サイトの利用状況として，ブログ投稿数，一ブログ当たりの文字数，ブログへのコメント数と割合，一コメント当たりの文字数を平成 19 年度と平成 20 年度についてそれぞれまとめたものを表３に示す．

ブログ投稿数を見ると，平成 19 年度では 282 の投稿数があり，一投稿当たりの文字数も 316 文字と平成 20 年度に比べ，活発に活用されたことがわかる．また，投稿されたブログへのコメントについては，平成 19 年度は 52.8%の割合となっているが，平成 20 年度は 37.7%と低い割合となった．

平成 19 年度と平成 20 年度のブログ投稿数の違いについては，教員の学習支援の一つとしているブログへのコメント数の低さも影響していると考えられる．また，教員だけでなく受講生同士の情報交換としてブログへのコメント機能を可能な設定としているが，ほとんどが教員によるものであった．閲覧はされていたが，コメントするまでに至らなかった．

表3 受講生のブログ利用状況

	平成19年度	平成20年度	総数
ブログ投稿数	282	159	441
一ブログ当たりの文字数	316.6	269.9	300.0
ブログへのコメント数	149	60	209
（教　員）	147	58	205
（受講生）	2	2	4
ブログへのコメントの割合	52.8%	37.7%	47.4%
一コメント当たりの文字数	158.6	178.3	164.2

③COCOMO サイトの受講生の評価

平成 20 年度の「ボランティア論」受講生のうち単位修得者（27 名）に対し，COCOMO

サイトの有効性や利用状況についてアンケートを実施した．

COCOMO サイトがボランティア活動をする上で役に立ったかを機能別に 5 段階評価で尋ねた結果，ポートフォリオ機能として学生自身の活動記録がわかるようにした「ボランティア活動記録フォルダ」が最も評価が高く，次に「他学生のブログ」，そして毎回記入する「活動記録シート」となった．ブログにある他学生へのコメント機能は，受講生同士ではほとんど使われなかったが，他学生の活動を閲覧することだけでも学生自身の活動によい効果があったことがわかる．教員のコメントについては，平成 20 年度では少なかったために評価が低く，また「自己評価シート」では質問数の多さ（五者択一の 26 問，記述式の 2 問）が評価を下げる結果となった．

次にボランティア活動中に COCOMO サイトでよく閲覧したページを複数選択で答えてもらった．「他学生のブログ」が回答者の 74%を占め，「活動状況リスト」「自分のブログ」「ボランティア活動記録フォルダ」と続いた．「活動状況リスト」とは，図 3 に示したように氏名等は隠されているものの他学生の現時点での活動時間が表示されるもので，全体の進み具合を確認できる．「他学生のブログ」については，役立ち度でも評価が高く，閲覧する受講生も多い．ブログは COCOMO サイト上で一般に公開されているため，ログインする必要もないこともその一因と言える．

(2)学生の意識の変化

活動記録シートは，毎回の活動の反省を促し，次の活動に繋ぐ目的のもので，毎回の活動後に記録することにしている．記録する主な内容は活動内容，活動時間のほか次の質問事項としている．

Q1.参加した団体の活動内容をよく理解できたか？
Q2.参加した団体の活動内容に興味をもったか？
Q3.参加した団体の印象は？
Q4.団体の活動に積極的に参加できたか？
Q5.参加した活動で何か得られるものがあったか？
Q6.参加した活動で，あなたは役に立ったと思うか？
Q7.今回のボランティア活動は，全体的に満足できたか？
Q8.あなたが設定した目標は，達成できたか？

それぞれの質問は「１：全く当てはまらない」～「５：よく当てはまる」の 5 段階評価で答える．

図４には，各受講生が答えた評価の平均値の活動回数による変化を質問事項ごとに，(a)Q1-Q3（団体の理解），(b)Q4-Q5（参加した満足度），(c)Q6-Q8（自分自身の評価）の３つに分けて示す．なお，データは毎回の活動後にしっかりと記録を行った受講生のもので，平成 19 年度に開講されたものを用いた．図４中(d)には受講生の活動状況によって活動回数が異なるため，各活動回数で活動した受講生数を示す．平成 19 年度の平均活動回数は 10 回である．

図４(a)の団体の理解に関する事項は，活動回数が増すに連れて上昇している．また，図４(b)の活動に参加した満足度は当初から高い値を示すが，18 回以上の回を重ねた受講生に，少し下降した変化が見られる．図４(c)の自分自身を評価したものでは，他に比較し低い評価から始まり徐々に上昇がみられるが，16 回以上の回を重ねた受講生に顕著な下降が見られる．16 回での受講生数は 7 名と少ないが，「役に立ったか」「満足できたか」「目標が達成できたか」など活動を重ねる中で，様々な自分自身に対する振り返りを行ったためであろう．ボランティア活動の特有のものとも言えるが，実際の現場での難しさなどを理解し，質の高いところで自分を評価していると思われる．活動記録シートは，その都度，記録することで内省が生じ，高いレベルの学習効果が期待できることがわかる．

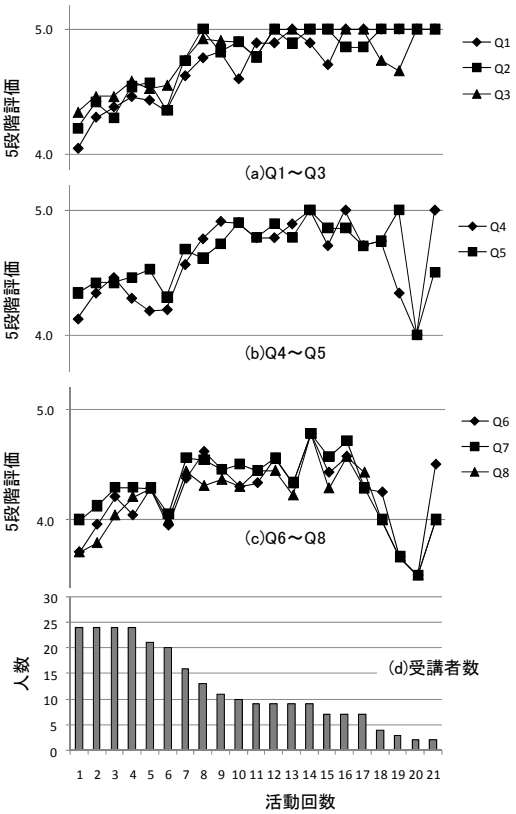

図4 活動評価の変化

(3)まとめ

本研究では，「ボランティア論」という講義において構築した COCOMO サイトを活用した状況について説明し，受講生へのアンケート，活動記録シート，自己評価シートの分析を行った．

その結果，平成 19 年度と平成 20 年度において同じ COCOMO サイトを利用したにも関わらず，それらの分析では平成 19 年度の受講生が何れも良い結果を示した．学外で活動するため，活動内容にも影響されたとも考えられるが，COCOMO サイトの活用にも課題があった．内省を促す活動記録シート，自己評価シートへの記録が活動した日時と大きく異なり，効果的でない利用がみられた．また，受講生への教員による指導を受講生が投稿したブログへのコメントで補うことを考えていたが，平成 20 年度はうまく機能しなかった．

学外活動であるボランティア活動では，ICT を活用することが情報共有という観点から非常に有効であるが，内省を促すシステムとして一連の流れをシステム化した COCOMO サイトでは，「いつでも登録が可能」という点が逆に課題となった．

今後は，学外活動では指導を徹底することは難しいため，システム本位でなく，学生本位で内省が可能なサイトの構築が必要である．

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

(1) 田中宏明、辻利則、川瀬隆千、竹野茂：“研究ノート　国際関係論と世界市民教育―カントのコスモポリタニズムをめぐる議論から―”、宮崎公立大学紀要論文、14 巻 1 号、pp.193-221 (2007)、査読無

(2) 川瀬隆千、田中宏明、辻利則、竹野茂：“宮崎公立大学「ボランティア論」の評価に関する研究”、宮崎公立大学紀要論文、14 巻 1 号、pp.85-99 (2007)、査読無

(3) 辻利則、川瀬隆千、田中宏明、竹野茂、森部陽一郎：“地域との連携によるサービスラーニングモデル構築と課題”、宮崎公立大学紀要論文、14 巻 1 号、pp.233-243 (2007)、査読無

(4) 田中宏明、辻利則、川瀬隆千、竹野茂：“シティズンシップ教育とサービス・ラーニング”、宮崎公立大学紀要論文、13 巻 1 号、pp.149-169 (2006)、査読無

(5) 川瀬隆千、田中宏明、辻利則、竹野茂：“本学キャリア教育プログラムが学生の自己効力感に及ぼす効果”、宮崎公立大学紀要論文、13 巻 1 号、pp.57-74 (2006)、査読無

(6) 辻利則、川瀬隆千、田中宏明、竹野茂：“CMS を用いた学生ボランティアマッチングシステムの構築”、宮崎公立大学紀要論文、13 巻 1 号、pp.183-193 (2006)、査読無

〔学会発表〕（計 2 件）

(1) 辻利則、川瀬隆千、田中宏明、竹野茂、森部陽一郎：“CMS を用いた学生の学外活動支援システムの開発”、日本教育工学会研究報告集、JSET07-5、pp.61-64 (2007)
発表者：辻利則、場所：熊本大学
年月日：2007 年 12 月 22 日

(2) 辻利則、川瀬隆千、田中宏明、竹野茂：“宮崎広域市町村圏域におけるＩＣＴを活用したサービスラーニングモデルの構築”、教育システム情報学会　第 31 回全国大会講演論文集、B1-4、pp.173-174 (2006)
発表者：辻利則、場所：大阪経済大学
年月日：2006 年 8 月 24 日

〔その他〕

・「ボランティア論」のホームページ
　http://cocomo.t617.com/
・「ボランティア情報」のホームページ
　http://vos.t617.com/

６．研究組織

(1)研究代表者

田中　宏明（TANAKA HIROAKI）
宮崎公立大学・人文学部・教授
研究者番号：20265036

(2)研究分担者

辻　利則（TSUJI TOSHINORI）
宮崎公立大学・人文学部・教授
研究者番号：00254657

川瀬　隆千（KAWASE TAKAYUKI）
宮崎公立大学・人文学部・教授
研究者番号：60234069

竹野　茂（TAKENO SHIGERU）
宮崎公立大学・人文学部・准教授
研究者番号：90254656